

スト含め今秋総力戦で分割・民営絶対阻止へ

中野委員長あいさつ・闘う全国鉄労働者の大同団結-総決起を訴へ

日刊 動労千葉

86. 9. 1

No. 2338

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）九五五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

大会速報(1)

三里塚・国鉄、秋の正念場決戦を前に、 動労千葉ヤリ回定期大会開かる



あいさつに立つ中野委員長(大会1日目)

家族会多数も参加して、代議員・傍聴者・来賓で埋まった会場

大会第一日目

動労千葉ヤリ回定期大会は、8月31

日、九十九里町・九十九里センターに代議員・傍聴者・来賓として家族会多数を迎え開幕した。冒頭、中野委員長が、「今定期大会終了後の9月、10月を今秋正念場決戦として全組合員が総決起・総行動として、一人ひとりの組合員が自らの立場と責任を自覚し全を出しきり闘いに起つこと、それによって国鉄分割・民営化攻撃に結着をつける闘いとしていく」との決意・方針を明らかにした。中野委員長の勝利の確信にみちたあいさつをうけ、来賓あいさつ、スローガン提起、諸経過報告、家族会あいさつ、組合表彰等を中心へ一部討論を含む、圧倒的成功へむけ進行している。

森内(成田)外山(更津)両代議員を議長に

大会は、代議員・傍聴組合員・家族で広い会場がいっぱいになる中で、定刻10時、山口副委員長の開会宣言ではじまった。

まず、片岡執行委員から資格審査結果が報告され、大会の成立が宣言された後、議長団に選出された森内(成田支部)、外山(木更津支部)両代議員を代表して、森内議長から、「国鉄労働者・家族にふりかかっている攻撃に対して全国鉄労働者に動労千葉のように闘わなければならぬことが問われている。われわれはその先頭にたって今秋決戦をき然と闘いぬき牽引し、かつ62・4・1に健在を示しぬく闘いをやりぬかなければならない。本大会の討論を通して闘う体制を確立しよう」との大会成功へのあいさつが行われ、大会書記局、役員指名の後、役員選挙管理委員会設置、スローガン案が提起された。

「数波のスト・実力決起方針の勝利」 「結着つける、全組合員総決起」を

「中野委員長あいさつ」
そして、全参加者が注目する中、本部を代表して、中野委員長が登壇した。

中野委員長は、「昨年10回大会で、反動中曾根の全体重かけた分割・民営攻撃にうち勝つ唯一の道は、われわれ当該(裏面にフック)

分割・民営化の阻止へ

スト含め強硬路線

9/1 朝刊
千葉動労定期大会

「国鉄の分割・民営化阻止」のダイヤ改正に伴う合理化や国を掲げる国鉄千葉動力車労働組合での国鉄関連法案審議などに「千葉動労、組合員約千人」の闘いは、「あらゆる戦術をもって第十一回定期大会が三十一日、山武郡九十九里町の九十九里センターで、二日間の日程で始まり、冒頭あいさつに立った中野委員長は、「分割・民営化を阻止するために、ストを含めた戦術で闘い抜く。乗入れは当局に屈服すること」との見解を述べた。委員長はまた、十月

目されていた、大会最終日の一日は、この日に続いて運動方針案を討議して採決する。

中野委員長のあいさつでは、このほか、同労組の闘争記録「俺たちは鉄路に生きる」や物品販売、国労組織などへのオルグ活動の成果を披露。さらに東京で七日に開催される「国鉄労働者全国交流会」の成功も訴えた。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

国鉄労働者がまず決起し、労働者人民の団いに結合させた時勝利できるとの立場から数波のストをもつて団いぬくことを決定し、実践してきた。この一年間は、この正しさ、勝利性をはっきりと証明する一年間であった。この一年間は敵の攻撃はますます激しさを増し、血みどろの一年間であった。動労革マルを軸としたマル生・反動組合の裏切り、そして国労中央が屈服路線に墮していく事態の中で、全国の職場・生産点で一人ひとりの役員・活動家・組合員が、団う方針・指導のない中で苦闘につぐ苦闘を強いられながら、相つぐ『自衛』にさえ追いつめられながらも国労の旗を守って闘っているという状況の中で、ゆれぬ心をとりにまく情勢が何であり、これからいかなる路線・展望をもつて団いぬくのか、今大会に問われている」と一年間の団いの勝利を確認すると共に、国鉄をめぐる情勢について、この一カ月間急ピッチに展開していると前置きし、運輸省発表の87年度概算要求の『国鉄清算事業団』初年度予算額二兆八千三百億円という問題、8月27日発表の『85年度監査報告』などに示された『国鉄改革』の破綻性について具体的に指摘した。さらに動労革マルの路線的破産、組織的大混乱、鉄労とのゆ着と対立・矛盾深化を具体的に示し、今こそ動労革マル追放・動労大改革に大進撃する時が来たことを訴えた。

そして、二波のストと上映・物販運動のきりさらりてきた偉大な地平を確認し、この地平の拡大の上に、『61・11ダイ改』阻止へむけて人材活用センター、広域運動粉碎を中心としたオ三波ストを軸としたあらゆる実力闘争にむけての準備体制を確立しなければならぬ。その条件づくりに全組合員が奮闘しよう。今日の事態は、昨年大会時以上に団いをゆれぬに要求している。それは、カンパニア的なものでなく、国鉄分割・民営化攻撃に結着をつけるような破壊力をもつた実力闘争でなくてはならない。この二カ月の団いが全てを決めてしまふほどの重要な時期を迎えている。二波のストライキとこの一年間の団いを継承・発展させ、さらなる勝利の地平をきりひろくべく、9・10月を全組合員が総決起・総行動として、一人ひとりの組合員が自らの立場と責任を出しきり、正念場の決戦にうって出よう」と結び、全体の圧倒的拍手でこれを確認した。

県労連、社会党、反対同盟、実行委、本山、弁護団等々より連帯のあいさつ

大会には多くの来賓の方々がかけてつけられた。千葉県労連を代表して広田事務局長、社会党千葉県本部を代表して市川福平委員長、社会党三区候補として共に闘った安房地区労止田実氏、国会議員・赤桐操氏、二期攻撃と敢然と団いぬいている三里塚の現地より反対同盟の北原事務局長、小川喜吉氏、島村良助氏が連帯・激励のあいさつを送られた。

また、動労千葉支援・東京実行委員会の長谷川英寛氏からあいさつと共にスト支援基金力ンパ百五十万円が手渡された。

はるばる関西の地より関西実行委の山本善備氏と、関西新空港に反対して選挙闘争を勝利した泉佐野市議・国賀祥司氏からお礼と報告とあいさつがなされた。

動労千葉顧問弁護団から葉山氏、清井氏があいさつと報告、船橋市議・中江冒夫氏からあいさつと報告がなされた。

はるばる仙台の地より兄弟労組たる全金本山労組を代表して長谷谷氏の暖かい激励と連帯のあいさつをいただき、オ一日目午前の議事を終了した。(あいさつの要旨は別途紹介します)

家族会から報告と決意

昼食後、参加した多くの家族を代表して大須賀さん(成田)、林さん(葛葉・天石)から報告とあいさつをうけたのち、多くの檄電・メッセージが議運の小島氏から紹介された。午後の議事は、「大会延期承認」(白井特報)、「一般経過報告」(水野副委員長)、「労働協約・協定締結報告」(山下孝憲)、「会計報告」(西森財政部長)、「会計監査報告」(室岡会計監査員)、「組織財政検討委員会報告」(白井同委員会委員長)から、各々報告がなされた。

松崎靖 前新小岩支部長 組合表彰さ

議事の最後に永年の組合活動を献身的に担い、きつてこられた前新小岩支部長・松崎靖氏が組合表彰をうけ、委員長より感謝状と記念品が手渡され、会場ゆんばかりの拍手がこれを祝福した。このあと二名の代議員より、発言があり本部答弁をうけ、17時半、オ一日目の議事を終了した。オ二日目は、朝より質疑討論で開始される。

(以上)